

6月のイベント情報

ザリガニを標本にしよう！

標本を作ったことはありますか？見やすく長く保存できる標本を、ザリガニで作ってみましょう。

開催日時 6月8日（日）午前10時から15時頃まで

定員 30名

開催場所 森林科学館

講師 相川 徳博（白根はく製）

持ち物等 ザリガニ（大2匹）・小さなバケツ・万能はさみ・コーヒースプーン・絵の具セット・雑巾用タオル（2枚）・弁当・汚れてもよい服装

入館料 大人400円、小中学生200円

（長坂町内小中学生は無料）

主催 長坂あぜ道の会

里山のトンボ観察会

里山は、トンボの宝庫です。トンボ博士に解説してもらいながら、トンボを観察してみましょう。

開催日時 6月15日（日）

午前10時から12時まで

定員 20名

開催場所 オオムラサキ自然公園

講師 石澤 直也（国際トンボ学会会員）

持ち物等 アミ・昆虫図鑑・汚れてもよい服装

主催 長坂あぜ道の会

※雨天開催

里山探検隊

里山に暮らす生き物を探してみよう。探検しながら音や匂いも記録して、世界に1つだけの観察ブックを作ろう。

開催日時 6月29日（日）

午前10時から12時まで

定員 20名

対象 小学生以上

開催場所 オオムラサキ自然公園

服装 動きやすい服装

参加費 500円（資料「オオムラサキのすむ森」代）

炭の風鈴づくり

透き通った音色の、炭の風鈴を作ってみましょう。

開催日時 6月22日（日）

午前10時から12時まで

定員 20名

開催場所 オオムラサキ自然公園

持ち物等 軍手・汚れてもよい服装

入館料 大人400円、小中学生200円

（町内中学生以下は無料）

小枝で作る！虫の工作

強そうなカブトムシ、カッコいいクワガタムシを小枝で作ってみましょう！

開催日時 6月29日（日）

午後1時から3時まで

講師 田中 旻

定員 20名

開催場所・服装・入館料は「森の工作教室」と同じ。材料費は無料。

森の工作教室

★本立て・CDラック・状差しなどを作ってみよう！

6月8日（日）・15日（日）午後1時から3時まで

★風にそよぐモビールや自分だけの木のパズルを作ってみよう！

6月21日（土）午前10時から12時まで

講師 田中 旻

定員 各日20名

開催場所 森林科学館

服装 作業のできる服装

入館料 大人400円、小中学生200円

（町内中学生以下は無料）

材料費 本立て・CDラック500円～700円。

モビール・パズル100円～200円。

※ 所要時間はそれぞれ最低1時間です。

オオムラサキ通信

NO. 61

発行：平成15年5月29日

編集：長坂町オオムラサキセンター

オオムラサキ博士になろう！

このコーナーでは、身近な自然のことや知っているようで知らない昆虫のことなどを紹介していきます。

役に立つ虫 ②

1840年頃、オーストラリアにやってきた一人の医者が、一鉢のサボテンを持ち込みました。サボテンはたいそう珍しがられ、あちこちの人に株分けされました。ところが、栽培していた人の不始末で野外に捨てられると、サボテンはまたたく間に増え、30年後には豪州全土に広がってしまいました。困ったことにこのサボテン、原産地のアメリカ大陸では草丈は20数センチ程度にしか育たなかったのに、オーストラリアの風土がよほど適していたのか、2～3メートルにまで巨大化してしまいました。おまけにこのサボテンを食べる動物や昆虫もいないため、庭園や農耕地、公園にまで侵入しました。刈り取ろうとしても鋭いトゲがあるので、誰もサボテンジャングルに入れません。除草剤をまいてみましたが、薬の値段が高くて実用は困難でした。ローラーでつぶそうとしましたが、機械が入り込めない場所もあり、そうした場所に生き残ったサボテンが再び成長し、あっという間に周囲は元のサボテンジャングルに逆戻りです。1913年、オーストラリア政府はテキサス、メキシコなどサボテンの原産地から、サボテンを食べる昆虫を輸入することに決めました。政府はサボテンを食べていた多くの昆虫のうち、サボテンガという大型の蛾が一番有効だと判断しました。40アールのサボテンに対し、蛾の幼虫を100万匹放したところ、サボテンは完全に食い尽くされ、駆除は大成功を収めたのでした。ところで、雑草駆除のために昆虫を輸入する際には、最大の注意が払われます。もし、その虫が雑草だけでなく、農作物も食べることができたなら、その虫はたちまち益虫から害虫に転落してしまいます。導入先に生えているあらゆる植物を虫に与え、農作物を食べたりはしないか、入念な試験が繰り返されます。

サボテンガのように輸入した生物ではありませんが、生物を使った雑草駆除は、実は私たちの身近にもあります。中でも有名なのがアイガモ農法、あるいは西日本のカブトエビ農法ではないでしょうか。アイガモやカブトエビがサボテンガの場合と違うのは、水田の水をかき回したり、底の土の上を歩き回ることにより、生えてきたばかりの雑草を掘り起こしてしまう効果がある点です。特に、カブトエビは雑草を食べることはありません。

（文責／自然とオオムラサキに親しむ会 小林隆人）

お問い合わせ・お申し込みは

〒408-0022

山梨県北巨摩郡長坂町塚川2812番地

長坂町オオムラサキセンター

TEL&FAX 0551-32-6648

URL <http://www.yatsui.gr.jp/ngs/oomurasaki/index.html>

こんなに大きくなりました。

耳を澄ますと、雑木林の中から今年一番のセミの鳴き声が聞こえてくる季節になりました。「びばりうむ長坂」のなかでも、オオムラサキの幼虫がエノキの葉を食べるバリバリという音がよく聞こえます。

4月下旬にはまだ茶色く小さかった4齢幼虫は、脱皮をして、緑色の5齢幼虫になり、エノキが丸坊主になるような勢いで葉を食べ、どんどん大きくなっています。右上の写真は、「びばりうむ長坂」の中で撮影しました。同じ日に撮影した右下の写真の幼虫に比べると、とても大きく感じます。小さいのは、まだ脱皮をしていない4齢幼虫ですが、オオムラサキのメスはオスよりも1週間くらい遅く羽化するので、この幼虫はメスかも知れませんね。

この時期の幼虫は、大きくて観察しやすいので、ぜひ見にきてください。



エノキコーナー vol 23



とても小さい花 二つ

4月の末日よく晴れた日の午後、田植えの準備で土手草刈りにいったとき、休耕田の六条大麦（シュンライ）の穂が出揃い逆光に輝きながらそよ風に揺れる様に、はるか昔の「麦秋」という言葉を思い出しました。すべて農作業は人の手・人の力で行われ、作物に手をそえてきた時が懐かしく思い出されました。

ひっそりと、人知れずに咲いた小さな白い大麦の花を写真に収めました、そしてブルーベリーの紅色のつぼみに白い壺の花も。＜一生懸命に生きています見てね＞と風が優しくささやいていました。

自然とオオムラサキに親しむ会 朝日 竹夫



虫の本棚

『博物誌』

ジュール・ルナール 岸田國士訳 新潮文庫

『にんじん』で有名なフランスの作家 ジュール・ルナールの主要な著作は岸田國士（絵本作家の岸田衿子、テレビでおなじみの岸田今日子姉妹のお父さんです）により翻訳・紹介され、昔から愛読されてきました。

『博物誌』では70以上の動植物が、ルナールの鋭い観察眼の網にかかり、みごとな比喩と風刺をまじえた簡潔な文章で表現されています。たとえば、

あり 一匹一匹が、3という字に似ている。

それも、いること、いること！
どれくらいかという、333333333333.....ああ、きりがいい。

くじら 鯨 コルセットを作るだけの材料は、ちゃんと口の中に持っている。が、なにしろ、この胴まわりじゃ.....！

くも 蜘蛛 一晩じゅう、月の名によって、彼女は封印を貼りつけている。

「蛇」にいたっては、たったひと言！

へび 蛇 長すぎる。

では、蝶は？ これもたったひと言。それも、思わず蝶を捜しに野原へ出かけたくくなるような美しいひと言なのです。ぜひ本を手にとってごらんになって下さい。

各項目には、ボナールの挿絵が付いていて、眺めるだけでも楽しい一冊です。現在書店で入手できるものとしては、新潮文庫のほかには岩波文庫があります。こちらは、辻 廻 訳 トウルーズ・ロートレックの挿絵で、項目の後にはていねいな注がついています。また、臨川書店「ルナール全集」全16巻の中にも収録されています。

参考文献 「イメージの狩人 評伝ジュール・ルナール」 柏木隆雄 臨川選書

(荒畑 ふさ枝)

田植えをしたよ！



一列に並んで苗を植えていきます。

5月25日（日）水車前の棚田で田植えを行ないました。参加者は19名で、200㎡の田圃では適当な人数でした。子ども達は、まず素足で泥の感触に歓声を上げ体を躍らせ初めての体験を楽しんでいました。田植えは張り縄を前に親子が並び、弥生時代から植え継がれてきた古代米の小さな苗がやがて背丈を越え秋には沢山の大きな穂が付くことを語り合いながら肩を寄せあって植え付けていました。

この情景で目を引いたのは、子ども3名を連れた若い主婦の方で、田植えの動作には目を見張るものがあり、植える手付きはしなやかで5cm足らずの苗が水に漬かっても揺らぎ少なく見事に植えられていました。主婦も田植えが大好きで、田圃のある地域に嫁がったと語っていました。当日協力いただいた、手植えの経験が長い「長坂町名水とアイガモ米生産組合」の方々も、久しぶりに早乙女振りを見た后感心していました。

6月27日（金）に、森林科学館で「ホタルの舞うタペコンサート」を開催します。雨宮知子さんの歌を聞いた後は、ホタルの観察会も行ないます。夜6時開演、森林科学館の入場料のみ。